



アップグレードの準備

- [アップグレードの準備 \(2 ページ\)](#)
- [アップグレード中の時間を最小限に抑えて効率を最大化するためのガイドライン \(2 ページ\)](#)
- [アップグレードにかかる時間 \(4 ページ\)](#)
- [アップグレードの失敗を防ぐためのデータの検証 \(5 ページ\)](#)
- [同じ名前の事前定義済み承認複合条件が存在する場合は、承認単純条件の名前を変更する \(11 ページ\)](#)
- [VMware 仮想マシンのゲスト オペレーティング システムと設定の変更 \(12 ページ\)](#)
- [スポンサーグループ名から 非 ASCII 文字を削除する \(12 ページ\)](#)
- [通信用に開く必要があるファイアウォールポート \(12 ページ\)](#)
- [プライマリ管理ノードからの Cisco ISE 設定および運用データのバックアップ \(13 ページ\)](#)
- [プライマリ管理ノードからのシステムログのバックアップ \(14 ページ\)](#)
- [証明書の有効性の確認 \(14 ページ\)](#)
- [証明書を削除する \(15 ページ\)](#)
- [証明書および秘密キーのエクスポート \(15 ページ\)](#)
- [アップグレード前の PAN 自動フェールオーバーとスケジュールバックアップの無効化 \(16 ページ\)](#)
- [NTP サーバの設定と可用性の確認 \(16 ページ\)](#)
- [仮想マシンのアップグレード \(17 ページ\)](#)
- [プロファイラ設定の記録 \(17 ページ\)](#)
- [Active Directory および内部管理者アカウントの資格情報の取得 \(18 ページ\)](#)
- [アップグレード前の MDM ベンダーのアクティベート \(18 ページ\)](#)
- [リポジトリの作成およびアップグレードバンドルのコピー \(18 ページ\)](#)
- [利用可能なディスクサイズの確認 \(19 ページ\)](#)
- [ロードバランサ構成の確認 \(19 ページ\)](#)
- [ログの保持と MnT ハードディスクのサイズ変更 \(19 ページ\)](#)

アップグレードの準備

アップグレードプロセスを開始する前に、次のタスクを必ず実行してください。



- (注) プライマリおよびセカンダリ PAN のマルチノード展開で、監視ダッシュボードおよびレポートが、データレプリケーションの警告のため、アップグレード後に失敗することがあります。詳細については [CSCvd79546](#) を参照してください。回避策として、アップグレードを開始する前に、プライマリ PAN からセカンダリ PAN への手動での同期を実行します。



- (注) 現在、リリース 2.3 では、例外のため、リリース 2.3 パッチ 1 にアップグレードできません。詳細については [CSCvd79546](#) を参照してください。回避策として、アップグレードの前に、プライマリ PAN とセカンダリ PAN を同期します。

アップグレード中の時間を最小限に抑えて効率を最大化するためのガイドライン

次のガイドラインに従うと、アップグレードプロセス中に発生する可能性のある現在の展開の問題に対処できます。これにより、全体的なアップグレードのダウンタイムが削減され、効率が向上します。

- アップグレードの開始前に、既存のバージョンで最新のパッチにアップグレードします。
- 実稼働ネットワークのアップグレード前に、ステージング環境でアップグレードをテストし、アップグレードの問題を特定して修正することをお勧めします。
- データを交換するには、Cisco ISE 展開内のすべてのノードが同じパッチレベルにある必要があります。



- (注) 展開内のすべてのノードが同じ Cisco ISE バージョンおよびパッチバージョンにない場合、「**Upgrade cannot begin**」という警告メッセージが表示されます。このメッセージは、アップグレードがブロック状態にあることを示しています。アップグレードプロセスを開始する前に、展開のすべてのノードのバージョン（該当する場合はパッチバージョンを含む）が同じであることを確認します。

- 展開内の PSN の数と人員の可用性に基づいて、アップグレードする必要がある Cisco ISE の最終バージョンをインストールし、最新のパッチを適用して、対応可能な状態に保つことができます。
 - MnT ログを保持する場合は、MnT ノードに対して前述のタスクを実行し、MnT ノードとして新しい展開に参加します。ただし、操作ログを保持する必要がない場合は、MnT ノードを再イメージ化してこの手順をスキップできます。
 - 実稼働環境に影響のないマルチノード展開がある場合、Cisco ISE のインストールを並行して実行できます。ISE サーバを並列にインストールすると、特に以前のリリースのバックアップと復元を使用している場合、時間が節約されます。
 - 新しい展開に PSN を追加して、PAN からの登録プロセス中に既存のポリシーをダウンロードすることができます。ISE の遅延と帯域幅の計算ツールを使用して、Cisco ISE の展開における遅延と帯域幅の要件を理解します。
 - 古いログをアーカイブし、それらを新しい展開に転送しないことをお勧めします。これは、後で MnT ロールを変更する場合に、MnT で復元された操作ログが異なるノードに同期されないためです。
 - 完全な分散型展開を使用する2つのデータセンター（DC）がある場合は、バックアップ DC をアップグレードし、プライマリ DC をアップグレードする前に使用例をテストします。
- アップグレード前にローカルリポジトリでアップグレードソフトウェアをダウンロードおよび保存し、プロセスを高速化します。
 - アップグレードプロセスの開始前にアップグレード準備ツール（URT）を使用し、設定データのアップグレードの問題を検出して修正します。ほとんどのアップグレードの障害は、設定データのアップグレードの問題が原因で発生します。URT は、可能な場合は、必ずアップグレード前にデータを検証し、問題を特定、報告、または修正します。URT は、セカンダリポリシー管理ノードまたはスタンドアロンノードで実行できる個別のダウンロード可能なバンドルとして利用できます。このツールを実行するのにダウンタイムは発生しません。次のビデオでは、URT の使用方法について説明します。
<https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/security/ise/videos/urt/v1-0/cisco-urt.html>



警告 プライマリポリシー管理ノードでは URT を実行しないでください。URT ツールは、MnT 運用データのアップグレードのシミュレーションは行いません。

- GUI を使用して Cisco ISE をアップグレードする場合、プロセスのタイムアウトは 4 時間です。アップグレード所要時間が 4 時間を超えると、アップグレードは失敗します。アップグレード準備ツール（URT）のアップグレードに 4 時間以上かかる場合は、このプロセスに CLI を使用することをお勧めします。
- 設定を変更する前に、ロードバランサのバックアップを作成します。アップグレードウィンドウ中にロードバランサから PSN を削除し、アップグレード後に再び追加できます。

- 自動 PAN フェールオーバーを無効にして（設定されている場合）、アップグレード中に PAN 間のハートビートを無効にします。
- 既存のポリシーとルールを確認し、古くて、冗長な、更新されていないポリシーおよびルールを削除します。
- 不要なモニタリングログとエンドポイントデータを削除します。
- 設定と動作のログのバックアップを作成し、ネットワークに接続されていない一時的なサーバで復元することができます。アップグレードウィンドウ中はリモートロギングターゲットを使用できます。

アップグレード後に次のオプションを使用して、MnT ノードに送信されるログの量を削減し、パフォーマンスを向上させることができます。

- MnT コレクションフィルタ（[システム (System)]>[ロギング (Logging)]>[コレクションフィルタ (Collection Filters)]）を使用して、着信ログをフィルタリングし、AAA ログでエントリが重複しないようにします。
- リモートロギングターゲット（[システム (System)]>[ロギング (Logging)]>[リモートロギングターゲット (Remote Logging Target)]）を作成し、個々のロギングカテゴリを特定のロギングターゲット（[システム (System)]>[ロギング (Logging)]>[ロギングカテゴリ (Logging categories)]）にルーティングできます。
- [管理 (Administration)]>[システム (System)]>[設定 (Settings)]>[プロトコル (Protocols)]>[RADIUS] ウィンドウで [繰り返し発生する更新を無視 (Ignore Repeated Updates)] オプションを有効にして、繰り返し発生するアカウントの更新を回避します。
- アップグレードの最新のアップグレードバンドルをダウンロードして使用します。バグ検索ツールで次のクエリを使用して、アップグレードを探し、オープンで修正済みの関連不具合をアップグレードします。
<https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=%20ISE%20upgrade&pf=prNm&sb=anfi&mDf=4&sts=open&bt=custV>
- ユーザ数を減らした新しい展開ですべての使用例をテストし、サービスの継続性を確保します。

アップグレードにかかる時間

アップグレード時間の計算

次の表に、Cisco ISE ノードのアップグレードの推定所要時間を示します。アップグレードにかかる正確な時間は、いくつかの要因によって異なります。ノードグループに複数の PSN があれば、実稼働ネットワークはアップグレードプロセス中に停止することなく動作し続けます。



- (注) GUI を使用して ISE をアップグレードする場合、プロセスのタイムアウトは4 時間です。アップグレード所要時間が4 時間を超えると、アップグレードは失敗します。アップグレード準備ツール (URT) のアップグレードに4 時間以上かかる場合は、このプロセスに CLI を使用することをお勧めします。

展開のタイプ	ノードペルソナ	アップグレードにかかる時間
スタンドアロン	管理、ポリシーサービス、モニタリング	15 GB のデータごとに 240 分 + 60 分 アップグレードのタイムアウト時間内に古いデータを消去するには、『 Cisco Identity Services Engine Administrator Guide, Release 2.4 』の「Purge Older Operational Data」の手順に従います。
分散型	セカンダリ管理ノード	240 分
	ポリシーサービスノード	180 分
	モニタリング	15 GB のデータごとに 240 分 + 60 分

リリース 2.4 へのアップグレードでは、仮想マシンのゲストオペレーティングシステムをアップグレードして、ネットワークアダプタのタイプを変更する必要があります。ゲスト OS の変更では、システムの電源をオフにし、RHEL バージョンを変更し、電源を再度オンにする必要があります。前述の表にある推定所要時間のほか、アップグレード前のタスクにかかる時間を考慮する必要があります。複数の PSN を含む分散展開環境では、システムのアップグレード準備に約 2 時間必要です。

アップグレードにかかる時間に影響する要因

- ネットワークのエンドポイント数
- ネットワークのユーザ数とゲストユーザ数
- モニタリングノードまたはスタンドアロンノードのログの数
- プロファイリングサービス (イネーブルの場合)

アップグレードの失敗を防ぐためのデータの検証

Cisco ISE には、アップグレードプロセスを開始する前に、データのアップグレードの問題を検出し修正するために実行できるアップグレード準備ツール (URT) が用意されています。

ほとんどのアップグレードの失敗は、データのアップグレードの問題が原因で発生します。URTは、可能な場合は、必ずアップグレード前にデータを検証し、問題を特定、報告または修正するように設計されています。

URTは、複数のノードにおけるハイアベイラビリティと他の展開を実現するためのセカンダリ管理ノード、または単一ノード展開のスタンドアロンノードで実行できる個別のダウンロード可能なバンドルとして使用できます。このツールを実行する場合、ダウンタイムは必要ありません。



警告 複数ノード展開の場合、プライマリポリシー管理ノードではURTを実行しないでください。

Cisco ISE ノードのコマンドラインインターフェイス (CLI) からURTを実行できます。URTは次のことを行います。

1. サポートされているバージョンのCisco ISEでURTが実行されているかどうかをチェックします。サポートされているバージョンは、リリース2.0、2.0.1、2.1、2.2、および2.3です。
2. URTがスタンドアロンCisco ISEノードまたはセカンダリポリシー管理ノード（セカンダリPAN）で実行されているかどうかを確認します。
3. URTバンドルの使用開始日から45日未満であるかどうかをチェックします。このチェックは、最新のURTバンドルを使用していることを確認するために行われます。
4. すべての前提条件が満たされているかどうかをチェックします。

次の前提条件がURTによって確認されます。

- バージョンの互換性
- ペルソナのチェック
- ディスク容量



(注) [Disk Requirement Size](#)で利用可能なディスクサイズを確認します。ディスクサイズを増やす必要がある場合は、ISEを再インストールし、設定のバックアップを復元します。

- NTP サーバ
 - メモリ
 - システムと信頼できる証明書の検証
5. 構成データベースを複製します。
 6. 最新のアップグレードファイルをアップグレードバンドルにコピーします。



(注) URT バンドルにパッチがない場合、出力は N/A を返します。これは、ホットパッチのインストール時の正常な動作です。

7. 複製されたデータベースでスキーマとデータのアップグレードを実行します。

- (複製されたデータベースでアップグレードが成功した場合) アップグレードが完了するまでに要する予測時間を提示します。
- (アップグレードが成功した場合) 複製されたデータベースを削除します。
- (複製されたデータベースでアップグレードが失敗した場合) 必要なログを収集し、暗号化パスワードの入力を求めるプロンプトを表示し、ログバンドルを生成してローカルディスクに格納します。

アップグレード準備ツールのダウンロードと実行

アップグレード準備ツール (URT) は、アップグレードを実際に行う前に設定データを検証して、アップグレードの失敗を引き起こす可能性のある問題を特定します。

始める前に

URT の実行中は、同時に実行しないようにします。 :

- データをバックアップまたは復元する
- ペルソナ変更の実行

ステップ 1 [リポジトリの作成および URT バンドルのコピー \(7 ページ\)](#)

ステップ 2 [アップグレード準備ツールの実行 \(8 ページ\)](#)

リポジトリの作成および URT バンドルのコピー

リポジトリを作成して、URT バンドルをコピーします。パフォーマンスと信頼性を高めるために、FTP を使用することを推奨します。低速 WAN リンクを介したリポジトリを使用しないでください。ノードに近い位置にあるローカルリポジトリを使用することを推奨します。

始める前に

リポジトリとの帯域幅接続が良好であることを確認してください。

ステップ 1 Cisco.com から URT バンドルをダウンロードします (ise-urtbundle-2.4.0.xxx-1.0.0.SPA.x86_64.tar.gz) 。

ステップ 2 必要に応じて、時間節約のために、次のコマンドを使用して Cisco ISE ノードのローカルディスクに URT バンドルをコピーします。

```
copy repository_url/path/ise-urtbundle-2.4.0.xxx-1.0.0.SPA.x86_64.tar.gz disk:/
```

たとえば、アップグレードバンドルのコピーに SFTP を使用するには、次を実行できます。

```
(Add the host key if it does not exist) crypto host_key add host mySftpserver
copy sftp://aaa.bbb.ccc.ddd/ ise-urtbundle-2.4.0.xxx-1.0.0.SPA.x86_64.tar.gz disk:/
```

aaa.bbb.ccc.ddd は SFTP サーバの IP アドレスまたはホスト名、ise-urtbundle-2.4.0.xxx-1.0.0.SPA.x86_64.tar.gz は URT バンドルの名前です。

ローカルディスクに URT バンドルを置くと、時間を短縮できます。

アップグレード準備ツールの実行

アップグレード準備ツールは、アップグレードの失敗を引き起こす可能性のあるデータの問題を特定し、可能な限り問題を報告または修正します。URT を実行するには、次の手順を実行します。

始める前に

ローカルディスクに URT バンドルを置くと、時間を短縮できます。

application install コマンドを入力して、URT をインストールします。

```
application install ise-urtbundle-2.4.0.x.SPA.x86_64.tar.gz reponame
```

例 :

```
ise/admin# application install ise-urtbundle-2.4.0.x.SPA.x86_64.tar.gz reponame
Save the current ADE-OS running configuration? (yes/no) [yes] ?
Generating configuration...
Saved the ADE-OS running configuration to startup successfully
```

```
Getting bundle to local machine...
Unbundling Application Package...
Verifying Application Signature...
Initiating Application Install...
```

```
#####
# Installing Upgrade Readiness Tool (URT) #
#####
```

```
Checking ISE version compatibility
- Successful
```

```
Checking ISE persona
- Successful
```

```
Along with Administration, other services (MNT,PROFILER,SESSION) are enabled on this node. Installing
and running URT might consume additional resources.
Do you want to proceed with installing and running URT now (y/n):y
```

```
Checking if URT is recent(<30 days old)
- Successful
```



```
Installing URT bundle
- Successful

#####
# Running Upgrade Readiness Tool (URT) #
#####
This tool will perform following tasks:
1. Pre-requisite checks
2. Clone config database
3. Copy upgrade files
4. Data upgrade on cloned database
5. Time estimate for upgrade

Pre-requisite checks
=====
Disk Space sanity check
- Successful
NTP sanity
- Successful
Appliance/VM compatibility
- Successful
Trust Cert Validation
- Successful
System Cert Validation
- Successful
Invalid MDMServerNames in Authorization Policies check
-Successful
6 out of 6 pre-requisite checks passed

Clone config database
=====
[#####] 100% Successful

Copy upgrade files
=====
- N/A

Data upgrade on cloned database
=====
Modifying upgrade scripts to run on cloned database
- Successful

Running schema upgrade on cloned database
- Running db sanity to check and fix if any index corruption
- Auto Upgrading Schema for UPS Model
- Upgrading Schema completed for UPS Model
- Successful

Running sanity after schema upgrade on cloned database
- Successful

Running data upgrade on cloned database
- Data upgrade step 1/97, AuthzUpgradeService(2.0.0.308)... Done in 41 seconds.
- Data upgrade step 2/97, NSFUpgradeService(2.1.0.102)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 3/97, UPSUpgradeHandler(2.1.0.105)... ..Done in 154 seconds.
- Data upgrade step 4/97, UPSUpgradeHandler(2.1.0.107)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 5/97, NSFUpgradeService(2.1.0.109)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 6/97, NSFUpgradeService(2.1.0.126)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 7/97, NetworkAccessUpgrade(2.1.0.127)... Done in 4 seconds.
- Data upgrade step 8/97, ProfilerUpgradeService(2.1.0.134)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 9/97, ProfilerUpgradeService(2.1.0.139)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 10/97, ProfilerUpgradeService(2.1.0.166)... ..Done in 121 seconds.
```

アップグレード準備ツールの実行

```

- Data upgrade step 11/97, NSFUpgradeService(2.1.0.168)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 12/97, AlarmsUpgradeHandler(2.1.0.169)... Done in 3 seconds.
- Data upgrade step 13/97, RegisterPostureTypes(2.1.0.180)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 14/97, RegisterPostureTypes(2.1.0.189)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 15/97, UPSUpgradeHandler(2.1.0.194)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 16/97, TrustsecWorkflowRegistration(2.1.0.203)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 17/97, NSFUpgradeService(2.1.0.205)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 18/97, NetworkAccessUpgrade(2.1.0.207)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 19/97, NSFUpgradeService(2.1.0.212)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 20/97, NetworkAccessUpgrade(2.1.0.241)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 21/97, NetworkAccessUpgrade(2.1.0.242)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 22/97, UPSUpgradeHandler(2.1.0.244)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 23/97, ProfilerUpgradeService(2.1.0.248)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 24/97, NetworkAccessUpgrade(2.1.0.254)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 25/97, UPSUpgradeHandler(2.1.0.255)... Done in 11 seconds.
- Data upgrade step 26/97, MDMPartnerUpgradeService(2.1.0.257)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 27/97, NetworkAccessUpgrade(2.1.0.258)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 28/97, ProfilerUpgradeService(2.1.0.258)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 29/97, MDMPartnerUpgradeService(2.1.0.258)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 30/97, UPSUpgradeHandler(2.1.0.279)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 31/97, NSFUpgradeService(2.1.0.282)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 32/97, NetworkAccessUpgrade(2.1.0.288)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 33/97, NetworkAccessUpgrade(2.1.0.295)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 34/97, CertMgmtUpgradeService(2.1.0.296)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 35/97, NetworkAccessUpgrade(2.1.0.299)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 36/97, NetworkAccessUpgrade(2.1.0.322)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 37/97, NetworkAccessUpgrade(2.1.0.330)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 38/97, NSFUpgradeService(2.1.0.353)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 39/97, ProfilerUpgradeService(2.1.0.354)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 40/97, NSFUpgradeService(2.1.0.427)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 41/97, NSFUpgradeService(2.1.101.145)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 42/97, ProfilerUpgradeService(2.1.101.145)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 43/97, UPSUpgradeHandler(2.1.101.188)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 44/97, NetworkAccessUpgrade(2.2.0.007)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 45/97, UPSUpgradeHandler(2.2.0.118)... Done in 5 seconds.
- Data upgrade step 46/97, GuestAccessUpgradeService(2.2.0.124)... Done in 19 seconds.
- Data upgrade step 47/97, NSFUpgradeService(2.2.0.135)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 48/97, NSFUpgradeService(2.2.0.136)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 49/97, NetworkAccessUpgrade(2.2.0.137)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 50/97, NetworkAccessUpgrade(2.2.0.143)... Done in 17 seconds.
- Data upgrade step 51/97, NSFUpgradeService(2.2.0.145)... Done in 5 seconds.
- Data upgrade step 52/97, NSFUpgradeService(2.2.0.146)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 53/97, NetworkAccessUpgrade(2.2.0.155)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 54/97, CdaRegistration(2.2.0.156)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 55/97, NetworkAccessUpgrade(2.2.0.161)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 56/97, UPSUpgradeHandler(2.2.0.166)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 57/97, NetworkAccessUpgrade(2.2.0.169)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 58/97, UPSUpgradeHandler(2.2.0.169)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 59/97, NetworkAccessUpgrade(2.2.0.180)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 60/97, CertMgmtUpgradeService(2.2.0.200)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 61/97, NetworkAccessUpgrade(2.2.0.208)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 62/97, RegisterPostureTypes(2.2.0.218)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 63/97, NetworkAccessUpgrade(2.2.0.218)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 64/97, NetworkAccessUpgrade(2.2.0.222)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 65/97, NetworkAccessUpgrade(2.2.0.223)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 66/97, NetworkAccessUpgrade(2.2.0.224)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 67/97, SyslogTemplatesRegistration(2.2.0.224)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 68/97, ReportUpgradeHandler(2.2.0.242)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 69/97, IRFUpgradeService(2.2.0.242)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 70/97, LocalHostNADRegistrationService(2.2.0.261)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 71/97, NetworkAccessUpgrade(2.2.0.300)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 72/97, CertMgmtUpgradeService(2.2.0.300)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 73/97, NSFUpgradeService(2.2.0.323)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 74/97, NetworkAccessUpgrade(2.2.0.330)... Done in 1 seconds.

```

```
- Data upgrade step 75/97, NSFUpgradeService(2.2.0.340)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 76/97, NetworkAccessUpgrade(2.2.0.340)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 77/97, NetworkAccessUpgrade(2.2.0.342)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 78/97, AuthzUpgradeService(2.2.0.344)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 79/97, RegisterPostureTypes(2.2.0.350)... Done in 38 seconds.
- Data upgrade step 80/97, ProfilerUpgradeService(2.2.0.359)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 81/97, DictionaryUpgradeRegistration(2.2.0.374)... Done in 19 seconds.
- Data upgrade step 82/97, UPSUpgradeHandler(2.2.0.403)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 83/97, DictionaryUpgradeRegistration(2.2.0.410)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 84/97, UPSUpgradeHandler(2.3.0.100)... Done in 20 seconds.
- Data upgrade step 85/97, UPSUpgradeHandler(2.3.0.110)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 86/97, NetworkAccessUpgrade(2.3.0.145)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 87/97, NodeGroupUpgradeService(2.3.0.155)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 88/97, IRFUpgradeService(2.3.0.155)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 89/97, UPSUpgradeHandler(2.3.0.158)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 90/97, NetworkAccessUpgrade(2.3.0.178)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 91/97, NetworkAccessUpgrade(2.3.0.182)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 92/97, CertMgmtUpgradeService(2.3.0.194)... Done in 4 seconds.
- Data upgrade step 93/97, UPSUpgradeHandler(2.3.0.201)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 94/97, NSFUpgradeService(2.3.0.233)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 95/97, ProfilerUpgradeService(2.3.0.233)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 96/97, GuestAccessUpgradeService(2.3.0.233)... Done in 8 seconds.
- Successful
```

```
Running data upgrade for node specific data on cloned database
- Successful
```

```
Time estimate for upgrade
```

```
=====
```

```
(Estimates are calculated based on size of config and mnt data only. Network latency between PAN and other nodes
```

```
is not considered in calculating estimates)
```

```
Estimated time for each node (in mins):
```

```
upsdev-vm11 (STANDALONE):102
```

```
Application successfully installed
```

前述の操作を実行中にアプリケーションが正常にインストールされなかった場合、URT はアップグレードの失敗の原因を返します。問題を修正し、URT を再実行する必要があります。

同じ名前の事前定義済み承認複合条件が存在する場合は、承認単純条件の名前を変更する

Cisco ISEにはいくつかの事前定義された承認複合条件が付属しています。古い展開内の（ユーザ定義された）承認単純条件が事前定義済み承認複合条件と同じ名前である場合、アップグレードプロセスは失敗します。アップグレードする前に、次の事前定義済み承認複合条件名のいずれかと名前が同じ承認単純条件は名前を変更する必要があります。

- Compliance_Unknown_Devices
- Non_Compliant_Devices
- Compliant_Devices

- Non_Cisco_Profiled_Phones
- Switch_Local_Web_Authentication
- Catalyst_Switch_Local_Web_Authentication
- Wireless_Access
- BYOD_is_Registered
- EAP-MSCHAPv2
- EAP-TLS
- Guest_Flow
- MAC_in_SAN
- Network_Access_Authentication_Passed

VMware 仮想マシンのゲストオペレーティングシステムと設定の変更

仮想マシンの Cisco ISE ノードをアップグレードする場合は、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7 にゲストオペレーティングシステムを変更してあることを確認します。これを行うには、VM の電源をオフにし、RHEL 7 にゲストオペレーティングシステムを変更し、変更後に VM の電源をオンにする必要があります。RHEL 7 は E1000 および VMXNET3 ネットワークアダプタのみをサポートします。アップグレードする前に、ネットワークアダプタのタイプを変更する必要があります。

スポンサーグループ名から非 ASCII 文字を削除する

リリース 2.2 より前に、非 ASCII 文字を持つスポンサーグループを作成した場合、アップグレードの前に、スポンサーグループの名前を変更し、ASCII 文字のみを使用するようにしてください。

Cisco ISE リリース 2.2 以降のスポンサーグループ名では、非 ASCII 文字はサポートされません。

通信用に開く必要があるファイアウォールポート

プライマリ管理ノードと他のノードとの間にファイアウォールが設置されている場合は、次の各ポートがアップグレード前に開いている必要があります。

- TCP 1521 : プライマリ管理ノードとモニタリングノード間の通信用。
- TCP 443 : プライマリ管理ノードとその他すべてのセカンダリノード間の通信用。

- TCP 12001 : グローバルクラスタのレプリケーション用。
- TCP 7800 および 7802 : (ポリシーサービスノードがノードグループの一部である場合に限り該当) PSN グループのクラスタリング用。

Cisco ISE が使用するすべてのポートのリストについては、[『Cisco Identity Services Engine Hardware Installation Guide』](#)を参照してください。

Cisco ISE が使用するポートの完全なリストについては、「[Cisco ISE Ports Reference](#)」を参照してください。

プライマリ管理ノードからの Cisco ISE 設定および運用データのバックアップ

コマンドライン インターフェイス (CLI) または GUI から Cisco ISE 設定および運用データのバックアップを取得します。CLI コマンドは次のとおりです。

```
backup backup-name repository repository-name {ise-config | ise-operational} encryption-key {hash | plain} encryption-keyname
```



- (注) Cisco ISE が VMware で実行されている場合、ISE データをバックアップするのに、VMware スナップショットはサポートされていません。

VMware スナップショットは指定した時点で、VM のステータスを保存します。マルチノード Cisco ISE 展開環境では、すべてのノードのデータは、現在のデータベース情報と継続的に同期されます。スナップショットを復元すると、データベースのレプリケーションと同期の問題を引き起こす可能性があります。シスコは、データのアーカイブおよび復元用に、Cisco ISE に含まれるバックアップ機能を使用することを推奨します。

VMware スナップショットを使用して ISE データをバックアップすると、Cisco ISE サービスが停止します。ISE ノードを起動するには、再起動が必要です。

また、Cisco ISE 管理者用ポータルから設定および運用データのバックアップを取得することができます。バックアップファイルを格納するリポジトリを作成したことを確認します。ローカルリポジトリを使用してバックアップしないでください。リモートモニタリングノードのローカルリポジトリで、モニタリングデータをバックアップすることはできません。次のリポジトリタイプはサポートされていません。CD-ROM、HTTP、HTTPS、または TFTP。これは、これらのリポジトリタイプが読み取り専用であるか、またはプロトコルでファイルのリストがサポートされないためです。

1. [管理 (Administration)]>[メンテナンス (Maintenance)]>[バックアップと復元 (Backup and Restore)] を選択します。
2. [すぐにバックアップ (Backup Now)] をクリックします。
3. バックアップを実行するために必要な値を入力します。

4. [OK] をクリックします。
5. バックアップが正常に完了したことを確認します。

Cisco ISE はタイムスタンプを持つバックアップファイル名を付け、指定されたりポジトリにファイルを保存します。タイムスタンプに加えて、Cisco ISE は設定バックアップには CFG タグ、操作バックアップには OPS タグを追加します。バックアップファイルが指定リポジトリにあることを確認します。

分散展開では、バックアップの実行中にノードのロールを変更したり、ノードの設定を行ったりすることはできません。バックアップの実行中にノードのロールを変更すると、すべてのプロセスがシャットダウンし、データに不一致が生じる場合があります。ノードのロールを変更する際は、バックアップが完了するまで待機してください。



- (注) Cisco ISE では、ある ISE ノード (A) からバックアップを取得して、別の ISE ノード (B) に復元することができます。両方のノードは同じホスト名 (IP アドレスは異なる) です。ただし、ノード B 上のバックアップを復元した後は、証明書とポータルグループタグの問題が生じる可能性があるため、ノード B のホスト名を変更することはできません。

プライマリ管理ノードからのシステムログのバックアップ

コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用して、プライマリ管理ノードからシステムログのバックアップを取得します。CLI コマンドは次のとおりです。

```
backup-logs backup-name repository repository-name encryption-key { hash | plain } encryption-key name
```

証明書の有効性の確認

アップグレードプロセスは、Cisco ISE の信頼できる証明書またはシステム証明書ストアの証明書の期限が切れていると、失敗します。アップグレードの前に、[信頼できる証明書 (Trusted Certificates)] と [システム証明書 (System Certificates)] ウィンドウ ([管理 (Administration)] > [システム (System)] > [証明書 (Certificates)] > [証明書の管理 (Certificate Management)]) の [有効期限 (Expiration Date)] の有効性を確認し、必要に応じて更新してください。

また、アップグレードの前に、[CA 証明書 (CA Certificates)] ウィンドウ ([管理 (Administration)] > [システム (System)] > [証明書 (Certificates)] > [証明書機関 (Certificate Authority)] > [証明書機関の証明書 (Certificate Authority Certificates)]) の [有効期限 (Expiration Date)] の有効性を確認し、必要に応じて更新してください。

証明書を削除する

期限切れの証明書を削除するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ1 [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [証明書 (Certificates)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] > [システム証明書 (System Certificates)] の順に選択します。
 - ステップ2 期限切れの証明書を選択します。
 - ステップ3 [削除 (Delete)] をクリックします。
 - ステップ4 [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [証明書 (Certificates)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] > [信頼できる証明書 (Trusted Certificates)] の順に選択します。
 - ステップ5 期限切れの証明書を選択します。
 - ステップ6 [削除 (Delete)] をクリックします。
 - ステップ7 [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [証明書 (Certificates)] > [認証局 (Certificate Authority)] > [認証局証明書 (Certificate Authority Certificates)] の順に選択します。
 - ステップ8 期限切れの証明書を選択します。
 - ステップ9 [削除 (Delete)] をクリックします。
-

証明書および秘密キーのエクスポート

次の項目をエクスポートすることを推奨します。

- すべてのローカル証明書（展開内のすべてのノードから）およびその秘密キーを安全な場所にエクスポートします。証明書設定（どのサービスに証明書が使用されたか）を記録します。

-
- ステップ1 [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [証明書 (Certificates)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] > [システム証明書 (System Certificates)] の順に選択します。
 - ステップ2 証明書を選択し、[エクスポート (Export)] をクリックします。
 - ステップ3 [証明書および秘密キーをエクスポート (Export Certificates and Private Keys)] ラジオボタンを選択します。
 - ステップ4 [秘密キーのパスワード (Private Key Password)] と [パスワードの確認 (Confirm Password)] を入力します。
 - ステップ5 [エクスポート (Export)] をクリックします。
-

- プライマリ管理ノードの信頼できる証明書ストアからすべての証明書をエクスポートします。証明書設定（どのサービスに証明書が使用されたか）を記録します。

-
- ステップ 1 [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [証明書 (Certificates)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] > [信頼できる証明書 (Trusted Certificates)] の順に選択します。
- ステップ 2 証明書を選択し、[エクスポート (Export)] をクリックします。
- ステップ 3 [ファイルを保存 (Save File)] をクリックして証明書をエクスポートします。
- ステップ 4 [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [証明書 (Certificates)] > [認証局 (Certificate Authority)] > [認証局証明書 (Certificate Authority Certificates)] の順に選択します。
- ステップ 5 証明書を選択し、[エクスポート (Export)] をクリックします。
- ステップ 6 [証明書および秘密キーをエクスポート (Export Certificates and Private Keys)] ラジオボタンを選択します。
- ステップ 7 [秘密キーのパスワード (Private Key Password)] と [パスワードの確認 (Confirm Password)] を入力します。
- ステップ 8 [エクスポート (Export)] をクリックします。
- ステップ 9 [ファイルを保存 (Save File)] をクリックして証明書をエクスポートします。
-

アップグレード前の PAN 自動フェールオーバーとスケジュールバックアップの無効化

Cisco ISE のバックアップを実行した場合は、展開の変更を実行できません。そのため、アップグレードの妨げにならないようにするには自動設定を無効にする必要があります。Cisco ISE をアップグレードする前に、次の設定を無効にしていることを確認してください。

- プライマリ管理ノードの自動フェールオーバー：プライマリ管理ノードを自動フェールオーバーに設定している場合は、Cisco ISE をアップグレードする前に、自動フェールオーバーオプションを必ず無効にします。
- スケジュールバックアップ：アップグレード後にバックアップをスケジュールし直すように展開のアップグレードを計画します。バックアップスケジュールを無効にし、アップグレード後に再作成することができます。

スケジュール頻度が一度のバックアップは、Cisco ISE アプリケーションが再起動するたびにトリガーされます。このように、一度だけ実行するように設定されたバックアップスケジュールは、アップグレード前に設定を無効にしてください。

NTP サーバの設定と可用性の確認

アップグレード中、Cisco ISE ノードは再起動して、プライマリ管理ノードからセカンダリ管理ノードにデータを移行、複製します。これらの操作では、ネットワーク内の NTP サーバが正しく設定され、到達可能であることが重要です。NTP サーバが正しく設定されていない、または到達不能な場合、アップグレードプロセスは失敗します。

ネットワーク内の NTP サーバが、アップグレード中に到達可能で、応答性があり、同期していることを確認します。

仮想マシンのアップグレード

Cisco ISE ソフトウェアは、UCS ハードウェアで使用可能な最新の CPU/メモリ容量をサポートするために、チップおよびアプライアンスのキャパシティと同期している必要があります。ISE のバージョンが新しくなるにつれ、古いハードウェアのサポートが段階的に廃止され、新しいハードウェアが導入されます。パフォーマンスを向上させるために、仮想マシン (VM) のキャパシティをアップグレードすることをお勧めします。VM のアップグレードを計画する際は、OVA ファイルを使用するして ISE ソフトウェアをインストールすることを強くお勧めします。各 OVA ファイルは、VM を記述するために使用されるファイルを含むパッケージであり、Cisco ISE ソフトウェアをインストールするためにアプライアンスに必要なハードウェアリソースを確保します。

VM とハードウェア要件の詳細については、『[Cisco Identity Services Engine Installation Guide](#)』の「Hardware and Virtual Appliance Requirements」を参照してください。

Cisco ISE VM は、VM インフラストラクチャに専用リソースが必要です。ISE には、パフォーマンスと拡張性のためにハードウェアアプライアンスに類似した十分な量の CPU コアが必要です。リソースの共有は、高い CPU 使用率、ユーザ認証の遅延、登録、ログの遅延と廃棄、レポート、ダッシュボードの応答性などによりパフォーマンスに影響することが判明しています。これは、企業内のエンドユーザと管理者のユーザエクスペリエンスに直接影響します。



(注) アップグレード時には、共有リソースではなく、CPU、メモリ、ハードディスク領域に予約済みのリソースを使用することが重要です。

33x5 アプライアンスに基づく VM からアップグレードする場合、アップグレードされる VM はより多くの CPU コアを使用する必要があります (3515 向けの OVA の場合、約 6 コアが割り当てられます。3595 向けの OVA の場合、HT が有効な状態で、8 コア/64GB RAM が使用されます)。詳細については、ISE 2.4 の OVA 要件を確認してください。

34xx シリーズ アプライアンスは、Cisco ISE リリース 2.4 以降ではサポートされていません。

Cisco ISE リリース 2.4 以降では、ローカルディスク割り当てが 29 GB に増えるため、仮想マシンの最小ディスクサイズが 300 GB 必要です。

プロファイラ設定の記録

プロファイラサービスを使用する場合、管理者ポータルから、各ポリシーサーバノードのプロファイラ構成を必ず記録してください ([管理 (Administration)] > [システム (System)] > [展開 (Deployment)] > <ノード> > >)。ノードを選択して、[ノードの編集 (Edit Node t)] をクリックします。[Edit Node] ページで、[プロファイリング設定 (Configuration)] タブに移動します。構成情報をメモするか、スクリーンショットを取得できます。

Active Directory および内部管理者アカウントの資格情報の取得

外部アイデンティティソースとして Active Directory を使用する場合は、Active Directory のクレデンシャルと有効な内部管理者アカウントクレデンシャルを手元に用意してください。アップグレード後に、Active Directory 接続が失われることがあります。この場合、管理者ポータルにログインするために ISE 内部管理者アカウント、Cisco ISE と Active Directory を再接続するために Active Directory のクレデンシャルが必要です。

アップグレード前の MDM ベンダーのアクティベート

MDM機能を使用する場合は、アップグレードの前に、MDMベンダーのステータスがアクティブであることを確認します。

MDM サーバ名が承認ポリシーで使用され、対応する MDM サーバが無効の場合は、アップグレードプロセスは失敗します。回避策として、次のいずれかが可能です。

1. アップグレードの前に MDM サーバを有効にします。
2. 承認ポリシーから MDM サーバ名属性を使用する条件を削除します。

リポジトリの作成およびアップグレードバンドルのコピー

リポジトリを作成して、バックアップを取得してアップグレードバンドルをコピーします。パフォーマンスと信頼性を高めるために、FTP を使用することを推奨します。低速 WAN リンクを介したリポジトリを使用しないでください。ノードに近い位置にあるローカルリポジトリを使用することを推奨します。

ローカルディスクにアップグレードバンドルを置くと、アップグレード時間を短縮できます。また、**application upgrade prepare** コマンドを使用してアップグレードバンドルをローカルディスクにコピーして抽出することもできます。



- (注)
- リポジトリとの帯域幅接続が良好であることを確認してください。リポジトリからノードにアップグレードバンドル（ファイルサイズは約9GB）をダウンロードする場合、ダウンロードが完了するまでに 35 分以上かかるとダウンロードがタイムアウトします。
 - ローカルディスクに設定ファイルが保存されている場合は、アップグレードの実行時に削除されます。したがって、Cisco ISE リポジトリを作成し、このリポジトリにコンフィギュレーションファイルをコピーすることをお勧めします。

アップグレードバンドルは [Cisco.com](https://www.cisco.com) からダウンロードします。

リリース 2.4 にアップグレードするには、このアップグレードバンドルを使用します。
ise-upgradebundle-2.x-to-2.4.0.xxx.SPA.x86_64.tar.gz

アップグレード用に、次のコマンドを使用して Cisco ISE ノードのローカルディスクにアップグレードバンドルをコピーできます。

copy repository_url/path/ise-upgradebundle-2.x-to-2.4.0.xxx.SPA.x86_64.tar.gz disk:/

たとえば、アップグレードバンドルのコピーに SFTP を使用するには、次を実行できます。

1. (ホストキーが存在しない場合は追加します) **crypto host_key add host mySftpserver**
2. **copy sftp://aaa.bbb.ccc.ddd/ise-upgradebundle-2.x-to-2.4.0.xxx.SPA.x86_64.tar.gz disk:/**

aaa.bbb.ccc.ddd は SFTP サーバの IP アドレスまたはホスト名、
ise-upgradebundle-2.x-to-2.4.0.xxx.SPA.x86_64.tar.gz はアップグレードバンドルの名前です。

利用可能なディスクサイズの確認

仮想マシンに必要なディスク容量が割り当てられていることを確認します。詳細については、『[Cisco ISE Installation Guide](#)』を参照してください。ディスクサイズを増やす必要がある場合は、ISE を再インストールし、設定のバックアップを復元する必要があります。

ロードバランサ構成の確認

プライマリ管理ノード (PAN) とポリシーサービスノード (PSN) 間でロードバランサを使用している場合は、ロードバランサで設定されたセッションタイムアウトがアップグレードプロセスに影響しないことを確認してください。セッションタイムアウト値を低く設定すると、ロードバランサの背後にある PSN でアップグレードプロセスに影響する可能性があります。たとえば、PAN から PSN へのデータベースダンプ中にセッションがタイムアウトすると、PSN でアップグレードプロセスが失敗する可能性があります。

ログの保持と MnT ハードディスクのサイズ変更

アップグレードでは、MnT ディスクの容量を変更する必要はありません。ただし、ログを継続的に記録し、ハードウェアの容量を増やす必要がある場合は、ログ保持のニーズに応じて MnT のハードディスクのサイズを計画できます。ログ保持の容量が Cisco ISE リリース 2.2 から何倍も増加していることを理解することが重要です。

また、Cisco ISE MnT に負荷をかける可能性があるさまざまなデバイスからの不要なログについては、アクティブなコレクションフィルタ ([管理 (Administration)] > [システム (System)] > [ロギング (Logging)] > [コレクションフィルタ (Collection filters)]) に移動) を使用することもできます。

コレクションフィルタの詳細については、『[Cisco Identity Services Engine Administrator Guide](#)』の「Maintain & Monitor」の章にある「[Configure Collection Filters section](#)」を参照してください。

ISE のパフォーマンスと拡張性に関するコミュニティページの ISE ストレージ要件を参照してください。該当の表には、RADIUS のエンドポイントの数と TACACS+ のネットワークデバイスの数に基づくログの保持が示されています。ログの保持は、TACACS+ または RADIUS あるいはその両方について個別に計算する必要があります。